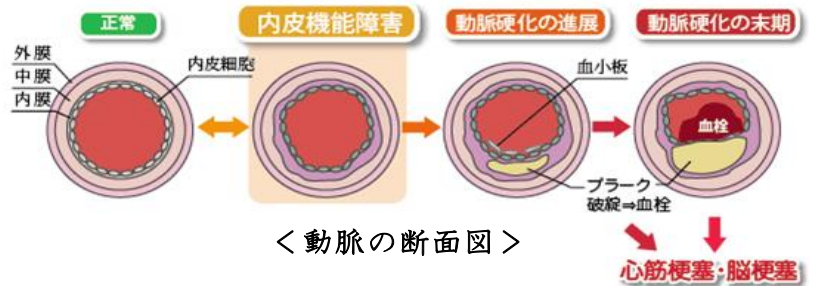


# 『FMDについて紹介致します。』

## ◆FMDとは??

Flow-mediated dilationの略で日本語で血流依存性血管拡張反応といい、血管内皮機能を評価する指標です。動脈硬化は血管内皮機能障害からはじまり、糖尿病や高血圧などの生活習慣病のリスクはその進行を加速させます。血管内皮機能の低下は心血管イベントリスクを高め、生命予後の悪化に繋がります。



## ◆Topics

今回はFMD多施設共同研究での臨床研究内容を紹介します。この研究は日本の3つの総合病院で2010年4月1日から2012年8月31日までに健康診断を受けた方々より5314名の成人を対象とし、FMDと各危険因子との関係、脳心血管疾患有病率との関係を調査することを目的として行われました。

図1：年齢を6つのグループに分類したFMD値を示しています。

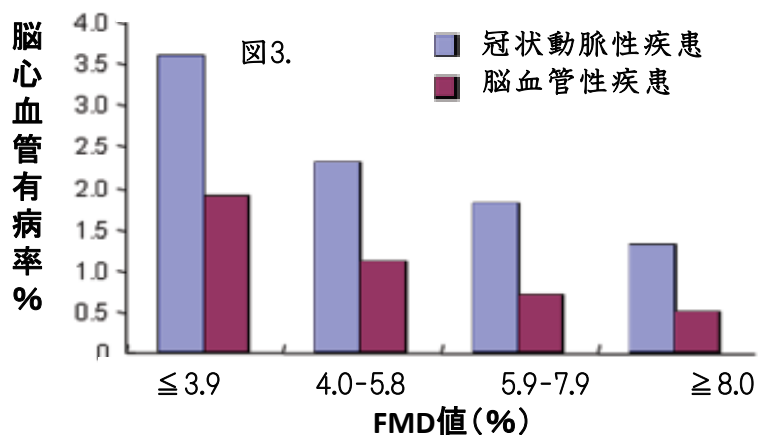
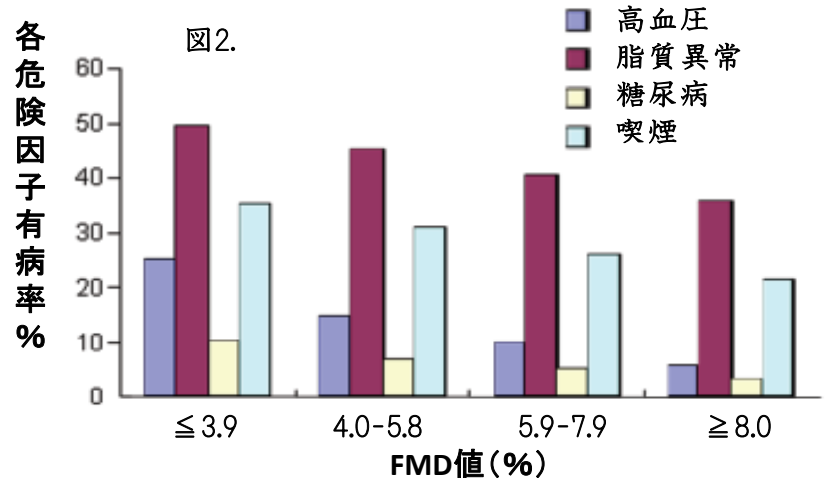
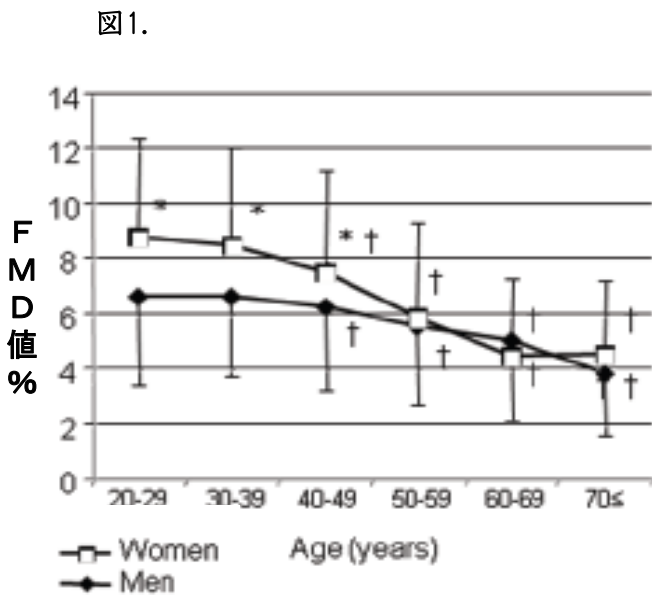
FMDは40歳代までは女性の方が男性より有意に高値を示しますが、閉経後は男性と同レベルとなります。

図2：FMD値と心血管危険因子の有病率を示しています。

FMDは低値になるに従い各危険因子有病率は高値となっています。

図3：FMD値と脳心血管有病率を示しています。

FMDは低値になるに従い脳心血管有病率は高値となっています。



※あくまで目安です。個人差もありますので自己診断はせずに診察、検査を受けることが重要です。



# 臨床検査室へようこそ！



臨床検査室では、臨床検査技師が血液や尿などから分析する検体検査と心電図や超音波検査などの生理機能検査を行っています。  
これらの検査は、病状把握や診断に欠かせない大切な情報ですので精度の高い迅速な報告を心がけています。

## ◆血液検査で食事の影響を受ける項目とは？

検査結果に変動が出る数値は主に下記のものがあります。

### ① 中性脂肪

脂質異常のリスクを調べるための検査項目です。  
食事を摂ることで数値が上がり4～6時間でピークとなります。  
空腹時が基準の数値となるため、検査を受ける10時間前からの絶食が必要です。  
食事を摂ると間違えて脂質異常症と診断される可能性があります。



### ② 血糖値

糖尿病のリスクを調べるための検査項目です。  
食事を摂ることで数値が上がり通常30分でピークとなります。空腹時が基準のため、食後に検査を受けると異常値と判断され、間違えて糖尿病と診断される可能性があります。

## ◆血液検査での運動による影響！

激しい運動をした後に血液検査をするとCK・AST(GOT)・ALT(GPT)などの数値が上がります。しかし、どの程度の運動で影響を受けるのかは難しいところだと思います。

- ・マラソン
- ・サイクリング
- ・テニス
- ・野球



など、激しい運動は血液検査の前日と検査前は控えましょう。  
または、運動の程度を考え万全の状態に備えていきましょう！

## ◆当日の服装に要注意！

意外と忘れがちですが、当日の服装にも気をつけましょう。心電図や超音波など胸やお腹を出す検査の時は、衣服の着脱が必要なので、ボディスーツを着用しているとご本人自身が検査前後に大変苦労されます。  
また、上着だけ上げると容易に検査準備できるのにワンピースを着用していた為に、全部着替えるということも時々みかけます。  
同様に夏場のパンティーストッキング、冬場のタイツなども検査によっては脱いで頂かないといけない場合もあります。  
臨機応変に対応できる服装で来院されることをお勧めします。



検体検査は、患者さまから直接には見えないところで検査をしています。貴重な検体(検査材料)を正確にかつ迅速に検査することで、患者さまの健康維持に貢献しています。